

①アメリカの大学入試

アメリカの大学は入試がないといわれるが、これは大学ごとの学力試験がないということである。多くの大学は、**SAT** (Scholastic Assessment Test) や **ACT** (American College Testing Program) という共通テストの成績と、高校の成績、課外活動の実績、論文、面接などで多面的に選抜している。「SAT」や「ACT」は年に6-7回ほど行われ、何度も受験することが可能だ。

②イギリスの大学入試

イギリスの大学に入学するには、**GCE** という試験の「A レベル」のグレードに合格していることが入学基準の一つとなっている。この GCE の A レベルを受けるには、まず義務教育終了の 15-16 歳時に「GCSE」という試験を受け、優秀な成績を残さないといけない。成績優秀者は GCE に向けた教育を行うスクールに入ることができ、2年間 GCE の「A レベル」の受験を目指して勉強をする。この試験の結果や論文、面接などによって大学の入学の可否が決まる。

③ドイツの大学入試

世界で最も優れた大学制度と称されるドイツでは、大学に入学するために**アビトゥーア**という資格が必要である。このアビトゥーアを取得すればドイツでは、どこの大学でも入ることができる。ただし、アビトゥーアを取得するには、大学進学を目指す「ギムナジウム」という9年制の学校に入ってアビトゥーア試験を受け、合学しないといけない。試験は1年に1度行われ、最大で2回までしか受けられない。合格すると、その資格は終身有効となる。

④フランスの大学入試

伝統的に高等教育を重視するフランスでは、大学に入学する際に**バカロレア**という国家資格を取得する必要がある。バカロレアの取得試験は主として論文形式で年に1回、6日間かけて行われる。バカロレアに合格すると、その資格は終身有効となる。試験は受験数の上限はない。もし不合格になれば、高校に留年するか、日本と同じように予備校などに通う場合がある。

バカロレアに合格すると、行きたい大学の学部に願書を出し、入学許可をもらう。バカロレア取得者は、基本的にどこの大学へも入学することができるが、入学定員数が限られているため、必ずしも希望の大学で学べるとは限らないようだ。(この**バカロレア**と世界の多くの国で認められている高校卒業証明書のような**国際バカロレア**とは異なるものである。)

⑤韓国の大学入試

韓国では**スヌン** (大学修学能力試験) と呼ばれる大学入試が行われている。スヌンの日は会社は出勤時間をずらしたり、受験生が遅刻しそうになると駅の近くなどで待機しているパトカーが受験会場まで乗せてくれたりするという。

スヌン (大学修学能力試験) をほとんど全ての4年制大学が利用する。スヌンの成績と高等学校が発行する生活記録簿 (調査書)、各大学の用意する2次試験 (小論文、面接、実技など) の結果を合わせて合否が判定される。例年11月に行われるスヌンだが、2020年は新型コロナウイルスの影響により、12月に行われた。

⑥中国の大学入試

中国では**高考（ガオカオ）**と呼ばれている全国普通高等学校招生入学考試が行われている。高考は2日間に分けて実施され、国語・数学・外国語が必修、それ以外に選択科目を受験する。高考は省ごとに実施され、国家統一試験とは言えない。ただ、中国の大学は2次試験がないので高考は大学入試のほぼ全てだという。

例年6月の初めに行われる高考だが、2020年は新型コロナウイルスの影響により、実施日が一カ月繰り下げられ7月7日・8日を中心に行われ約1071万人が受験した。（2021年1月に行われた日本の大学入試センター試験は、志願者数が約53万5千人だった。）

⑦インドの大学入試

インドといえば、世界の理工系大学の中でナンバー・ワンとも言われるインド工科大学（IIT : Indian Institute of Technology）が有名である。約1万人の定員数に対して、約50万人以上が受験し、競争率は50倍以上で世界最難関と言われている。入試科目の数学・理科（物理・化学）は、難易度が高く、一科目2時間あたりの口述試験も課される。

「大学に入るための資格」か「統一試験」か。

7カ国の大学入試制度の概略を紹介した。大学入試は、「大学に入るための資格」制度の国と「統一試験」制度の国に分けられるようだ。

グローバル化した社会では勉強だけではなく、異文化の適応力やコミュニケーション能力なども必要とされている。こうした現状を踏まえて日本では2021年から入試改革が行われる。今回は詳述できなかったが、同様の入試改革は各国とも行なっている。大学入試は、大学に入学するまでの教育内容に多大な影響を与える。このために各国ともより良い大学入試を作る模索を続けているのだ。

参考資料『大学入試改革 - 海外と日本の現場から』読売新聞教育部（著）中央公論新社

新型コロナウイルス感染症が世界の高等教育へ与える影響

国際大学協会（IAU : International Association of Universities）が、世界の111の国と地域の424の高等教育機関を対象にした「COVID-19(コヴィッド19)が世界の高等教育へ与える影響に係る調査」の結果を2020年5月26日に公表した。

80%の高等教育機関が、新しい学事年度の入学者数に影響が生じると考え、ほぼ半数（46%）が、留学生および国内学生ともに影響があると考えていることがわかった。また、ほぼすべての高等教育機関において教育に影響が出たが、3分の2の機関は教室型講義に代わって遠隔教育を行っているということだ。

試験については、半分強の高等教育機関は予定どおり試験を実施するとしているが、その大半は新しい方法で行うそうだ。これには地域差があり欧州では80%が試験を実施予定だが、アフリカでは61%が試験延期または中止の危機に瀕しているという。

日本でも多くの大学が遠隔教育を行っている。このため、大学に通う機会が少なく、人間関係が作りにくいなどと遠隔教育の問題点が指摘されている。

参考資料 : IAU releases Global Survey Report on Impact of Covid-19 in Higher Education